

【ATC フィロソフィ⑭】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。



ウェブサイト:

<https://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

反省のある生活

先月に続き弊社のフィロソフィと応援メッセージをお送りします。

人の文章には味がある

市井では生成 AI の活用の話題が花盛りです。私もよく活用していますが、最近あることに気付きました。それは、出力される文章に言葉に全く癖がないことです。人の書く文章には、何とも言えない粘っこさがあります。

2週間前に、ある製造設備のメーカー様から、英文の技術書類作成のご依頼を受けました。原文から微かに滲み出るそのお客様の気風 (Ethos) を感じながら作業をさせて頂きました。

円やかで簡潔であったり、冷たく簡潔であったり様々で、人間性を垣間見えるようで楽しめます。

ところが、これを生成 AI に書かせると、見た目はルールに沿った良さそうな

文章を書きますが、粘っこさと言うか独特の味わいや臭さが掻き消えてしまいます。カレーで例えるとレトルトカレーのようです。

ある人から聞いた話ですが、Google 翻訳で英文を作成して、イギリスに送ったところ、相手のイギリス人から「Google 翻訳を使用したな」と言われたそうです。ビジネスで使う文章には、思いが沁み込んでいる文章が必要なのだと思います。

AI の自然言語処理でこれができるようになると良いですね。

弊社フィロソフィです。

反省することで心を浄化する

心を純粋にして、考えを高尚にするには、日々の判断や行為がはたして「人間として正しいものであるかどうか、驕り高ぶりがいいのかどうか」と、常に謙虚に

厳しく反省し、自らを戒めていかなければなりません。反省は、「公平」「公正」「誠実」「正義」「勇気」「博愛」「勤勉」「謙虚」の内容で人間として正しいことができているかどうか。さらに、良い心「常に前向き」「建設的である」「みんなと一緒に仕事をしようとする協調性を持っている」「明るいこと」「肯定的であること」「善意に満ちていること」「思いやりがあって、優しいこと」「真面目で、正直で、謙虚で、努力家であること」「利己的ではなく、強欲ではないこと」「「足る」を知っていること」「感謝の心を持っている」の本質にたちかえって反省を繰り返していると、間違いをしなくなるのです。

この項目は、人生の送り方の中では、特に大事な項目です。自分の持つ「哲学、思想、心のあり方、または理念、信念、あるいは人格」というものが人生を決めま

す。

しかし、我々人間は心と肉体を持って生まれてきます。そのために自らの肉体を維持しなければなりません。毎日食事を取り、水を飲み、睡眠を取らなければ、生きていけないのです。それ故に、人間はもともと自分を守ろうとする心、すなわち利己的で欲望に満ちた心を持っているわけです。それは本来この肉体を維持していくために、神様が与えてくれた心なのです。

だから、何も手入れをしないでそのまま放っておけば、人間の心は必ず利己的で強欲なものに満ち満ちてしまいます。そこで、この項目にある「反省」ということがたいへん大事になってくるわけです。

反省を繰り返し、常に心を純粹にしていなければ、すばらしい考え方、すばらしい人格、すばらしい人間性、そういうものを維持していくことは不可能です。ましてや、人格を向上させることなどできるわけがありません。心を純粹にして、自分の行動を善の方向へ向けていくためにも、「反省」は欠かせないものなのです。

反省は鏡に向かって「神様ごめん」「神様ありがとう」

毎朝洗面時に、鏡に映っ

た顔を見ながら反省することを推奨します。また、就寝前に鏡を見ながら、ちょっと威張ったようなことや調子のいいことを言った日など、「神様ごめん」と反省して、自分の三毒の考え方を浄化します。

また、反省の方法として、「神様ありがとう」という言葉の後に必ず、「先ほどの態度はごめんなさい。どうか私を許してください。それから、私に悪いことをしたと気づかせてくれてありがとうございます」という気持ちで、感謝の思いを伝えます。この言葉が、自分を戒め、反省させるものになっています。

反省ある日々が目的を全うする

「反省」が必要な理由は、もうひとつあります。我々の人格は、目的に向かって一生懸命に働くことで形成されます。ところが、ある程度目的が達成された時に、更なる努力を怠ると、せっかく形成された人格が変化してしまいます。これを防ぐには、「反省」しか方法はありません。

「無私になっているか」、「欲張っていないか」、「人に不愉快な思いをさせていないか」、「人を騙してはいないか」、「人に嘘を言って

いないか」といような些細な事柄から、日々反省していきます。

※2024年05月号に続きます。

応援メッセージです。

己を謙虚な心にして驕らない考え方

「神様は、人間を通して、善きことを為されようとしている」と言う考え方があります。だから神社や仏閣に参詣してお願いをするのでなく、神社に詣でて「何をすればいいか」をお伺いするのです。

そう思うと、納得がいくような気がします。お参りに行った時に、心を静めてお祈りをします。

神様が、我々人間を通して善きことをしようとしているのに、それに沿わない輩は、どうしても不幸になっていくのも当然のことかと思えます。

神様の意志に逆らって、自分の欲だけをおき出しに何かを得ようと思って、物は得たとしても、結局幸せにならないことも道理です。

神様は、人間を通して、善きことを為されようとしていると、同時に人間に考えることの自由も与えてく

ださっています。善きことをするも、しないも、自分の自由です。ただ神様が為されようとしていることを手伝え、力を与えてくださる。神様が為されようとしていること以外のことには、力を貸してくださることは無いと思います。

神様の力を借りて何かする時は、神がかりなことまで含め、自分の想定以上にうまく行きます。これを自分の実力と勘違いしてしまうと、神様がしようとしたことだけに力を与えてくださるが、それ以外は自力で遣るしか無くなり、想定のようにうまく行かないことが起こります。

それは、道理に沿った、神様が為されようとしていることかどうかを分かることです。その為には、私心を抑え、我慢して抑え、優しい思いやりの心で、世の為人の為になるように神さまの力をお借りすることが大切です。

豊原 信